

### 資料3 各市町村の鳥獣被害防止計画におけるアオサギに関する事項の抜粋

(注) 計画駆除数、被害金額、被害面積、被害軽減目標等の数値項目については表2を参照。

<p>北海道 芽室町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の現状】 養殖魚への被害 駆除依頼1件</p>
<p>北海道 日高町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 アオサギについては、水稻・ヤマメ等の被害がある。 【被害防止対策】 アオサギについては、内水面魚家が自家防衛しているが、被害が減少するに至っていない。 【捕獲等の取組内容】 主に農作物の作付け時期である4月から6月の期間において、銃器による捕獲を実施する。</p>
<p>岩手県 藤沢町 (現一関市)</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 アオサギは、田植え後の苗を踏みつけるなどの被害が確認されている。 【今後の取組方針】 カラス、ヒヨドリ、ゴイサギ及びアオサギの鳥類は、今後においても被害が集中する春、秋に箱罠、銃器による捕獲を継続的に実施するとともに、研修機会を設け捕獲率の向上に努める。 【捕獲等の取組内容】 カラス、ヒヨドリ、ゴイサギ及びアオサギは、人家密集地を除く地域において春、秋2回箱罠、銃器により捕獲する。</p>
<p>新潟県 十日市町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ</p>
<p>新潟県 糸魚川市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 サギ類 時期：4月から5月。地域：市内の一部地域。農作物：田植時の倒伏が多く補植で対応。 【対象鳥獣の捕獲計画】 農作物や地域住民に危害を及ぼす有害な個体について、猟友会協力のもと箱わな等により捕獲する。(ただし、必要と判断される場合に限る)</p>
<p>富山県 滑川市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 表立った農作物被害報告は無いものの、糞害や騒音による生活環境被害が報告されている。 【被害の軽減目標】 平成20年では農作物・人身被害の発生は報告されていないが、目撃・痕跡情報があることから今後被害が拡大しないよう努めていく。 【捕獲計画数等の設定の考え方】 コロニー化している樹木の枝打ち等の啓発に努めるが、それでも被害が収まらない場合は、銃による捕獲を行う。 【捕獲等の取組内容】 被害場所付近で銃による捕獲を実施。 【被害防止に関する取組】 コロニー化している樹木の枝打ちの啓発。</p>
<p>富山県 射水市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の現状】 平成21年度、神社内で糞害あり。 【被害の傾向】 平成21年度は神社内での糞害があった。この他にも農林水産業に係る被害情報がある。 【被害の軽減目標】 アオサギは、平成21年度に神社での糞害があったことから必要に応じて記載し極力最小限の被害に努める。 【対象鳥獣の捕獲計画】 未然に巣を作らせない環境づくりに努める。</p>

<p>富山県 氷見市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 サギ類による被害は、市内全域で、稲の活着期から田干しの期間に水稻の踏み荒らし被害が発生している。  【従来講じてきた被害防止対策】 銃器による捕獲を実施している。  【捕獲に関する取り組み】 銃器による捕獲。  【捕獲計画数等の設定の考え方】 田植え直後から田干し時期まで、水稻へ踏み荒らしが深刻なことから、適期に集中した捕獲を実施する。（捕獲実績 H19年度：2羽、H20年度：24羽、H21年度：28羽）</p>
<p>福井県 おおい町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 カワウ、アオサギによる漁業被害、アオサギ、カラスによる水稻被害が毎年発生している。被害はカワウとアオサギ名田庄地区で、カラスは町内全域で発生している。  【対象鳥獣】 アオサギ  【近年の捕獲状況】 H17年度：0羽、H18年度：20羽、H19年度：53羽。</p>
<p>福井県 若狭町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 5～6月に稲の苗の倒害があり、1匹が与える被害はカラスよりも大きい。またアユや養殖魚などへの食害も発生している。  【捕獲数の設定の考え方】 鳥類（カラス・カワウ・アオサギ）：被害の多い5月に鳥類一斉駆除や町内パトロール、冬季にカラス檻による捕獲を行い被害軽減及び個体数調整を実施している。</p>
<p>福井県 小浜市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 カワウ、アオサギ：被害は市内を流れる北川・南川流域で顕著であり、鮎等の放流・遡上・産卵時期に食害が多く発生する。  【今後の取組方針】 水産業被害の多くはカワウ、アオサギによるもので、中でもカワウの被害が大きいと推測される。  【捕獲実績】 H17年度：0羽、H18年度：15羽、H19年度：10羽。  【捕獲等の取組内容】 カワウ、アオサギについては、市内を流れる北川・南川流域にて稚アユの遡上等の状況に応じて実施していく。</p>
<p>福井県 敦賀市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 田植え直後にアオサギによる苗の踏み倒し被害が市内全域で発生している。  【最近の捕獲状況】 その他鳥類（アオサギ、カワウ）H17年度：0羽、H18年度：8羽、H19年度：0羽。  【今後の取り組み】 その他鳥獣類については、被害状況等を踏まえ捕獲を実施する。</p>
<p>長野県 大町市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 アオサギ・カワウによる漁業被害も発生している。</p>
<p>長野県 安曇野市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 ここ最近ではアオサギ・カワウ等による漁業被害も発生している。</p>
<p>長野県 池田町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 カワウ・サギ等による漁業被害があり、当町だけでなく周辺市町村にも及ぼしている。養殖場付近での営巣・糞害も起こっている。</p>
<p>長野県 小谷村</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 アオサギに関しては、川に放流している稚魚や成魚を食害されているとの報告を漁業協同組合より受けている。網を張るなどの対策をしているとのことだが、効果は薄く、魚の食害の被害は拡大している。</p>

<p>長野県 白馬村</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 野生鳥獣による農作物等の被害は年々増加の傾向にあり、鳥類であればカラス、アオサギによる被害（中略）が多く発生している。農作物以外の被害としては、カラスによる商店街・住宅街での糞害、アオサギによる放流魚の食害があり（後略）。</p>
<p>愛知県 新城市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ</p>
<p>愛知県 東栄町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 カワウやアオサギによる被害として、鮎、アマゴなどへの被害が主であり、放流後の稚魚を多く捕食している。被害区域は町内を横切る大千瀬川周辺で被害が多発している。 【被害防止対策】 カワウ・アオサギなど河川へ放流した稚魚を捕食するため、捕獲以外には防止する方法がない。</p>
<p>愛知県 設楽町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 生息状況：町内全域、被害の発生時期：通年、被害の発生場所：町内全域の養殖池、被害地域の増減傾向：増加傾向 【今後の取組方針】 進入防止網を設置する。</p>
<p>三重県 名張市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 市内3漁業協同組合が稚鮎等の放流を行なっているが、カワウやアオサギによる食害が問題となっている。</p>
<p>滋賀県 米原市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 カワウ、アオサギによる被害は、アユ、イワナ、アマゴの水産被害が顕著である。被害区域は、姉川および天野川流域である。 【捕獲実績】 H18年度：28羽、H19年度：68羽。</p>
<p>奈良県 黒滝村</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 数年前よりカワウ・アオサギによる川魚への被害が発生し、特にアマゴの養殖場の被害は深刻化している。 【取組方針】 アオサギ、カワウについては、アマゴの養殖場に侵入防止施設を設置し被害の減少に努める。 【侵入防止柵の整備計画】 防除施設：約420㎡（H21年度）</p>
<p>奈良県 天川村</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 ここ数年カワウ・アオサギによる川魚の捕食被害が発生し、村営アマゴ種苗生産施設の被害も報告されている。1羽で一日に5～6匹の成魚を捕食し一年を通して被害がある。特にアユの捕食被害は深刻化し、漁業協同組合に多大な打撃を与えている。 【取組方針】 アオサギ、カワウについては、銃器による駆除はもちろんのこと、アマゴの養殖場の生簀に侵入防止施設を設置する。また、河川においては巡視の強化に加え、防除器具（かかし・防雀テープ等）を設置する。 【侵入防止柵の整備計画】 カワウ・アオサギ 防除施設：約510㎡（H21年度のみ）、防除器具：30基（H21、22、23年度） 【その他被害防止に関する取組】 カワウ・アオサギ 河川においては巡視の強化に加え、防除器具（かかし・防雀テープ）を設置する。</p>
<p>鳥取県 鳥取市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ 【被害の現状】 品目：水稻</p>

鳥取県 倉吉市	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 サギ類 田植え直後に水稻の踏み付け被害がみられる。</p> <p>【今後の取組方針】 サギ類・カワウ 被害を拡散させないよう繁殖期には、ドライアイス・偽卵等を用いて卵の孵化を抑制して個体数調整を図る。</p> <p>【捕獲等の取組内容】 サギ類・カワウ 捕獲手段：銃器、実施予定時期：4～7月（繁殖期前捕獲を強化、銃器に関しては通年）新たな取り組みとして、被害を拡散させないよう繁殖期には、ドライアイス・偽卵等を用いて卵の孵化を抑制して個体数調整を図る。</p>
鳥取県 若桜町	<p>【対象鳥獣】 サギ</p> <p>【被害の傾向】 田植え直後には水稻の踏荒らし等による被害が発生している。</p> <p>【被害防止対策】 現在のところ、有効な対処方法を見いだせない状況である。</p> <p>【今後の取組方針】 テグス、ネットの整備を検討。</p>
鳥取県 八頭町	<p>【対象鳥獣】 サギ</p> <p>【被害の傾向】 被害の実態は把握していないが、水稻への被害が発生している。</p> <p>【従来講じてきた被害防止対策】 現在のところ、有効な対策を見いだせない状況である。</p> <p>【今後の取組方針】 テグス、ネットの整備を検討。</p>
鳥取県 智頭町	<p>【対象鳥獣】 サギ</p>
鳥取県 大山町	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 植え直後に、水稻の踏み荒らし被害が発生している。</p> <p>【従来講じてきた被害防止対策】 現在のところ有効な対処法を見出せない状況である。</p> <p>【今後の取組方針】 テグス、ネットの整備を検討する。</p>
鳥取県 江府町	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 数年来、田植え後から7月頃までの間、水稻苗の踏み付け被害の報告がある。</p> <p>【今後の取組方針】 連絡協議会会員の銃器を用いた追い払い及び捕獲を行うとともにテグス、ネット等を用いた進入防止策を検討する。</p>
鳥取県 日南町	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 近年、飛来による被害が発生するようになった。営巣も見られ町内で繁殖するようになり、町内全域で水稻の落水までの間での踏み付け被害が発生している。防止テープ等の設置による被害防止対策を施し単年度では効果があったが、農道等へ舞い降り、歩行により水田侵入をするようになり被害が増大する傾向にある。</p>
鳥根県 松江市	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 カラス、キジバト、サギ類などの鳥類による被害は、市内全域で認められるが、春先から晩秋にかけて主に宍道湖北側の田畑で、野菜食害の他、水稻の苗の踏み倒しが多数報告されており、猟友会による有害鳥獣捕獲を行っている。</p>
鳥根県 安来市	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 サギ類等による水稻の苗踏み、養殖ドジョウの食害、また、カワウ、サギ類等による放流アユの食害等が報告されている。</p>
鳥根県 益田市	<p>【対象鳥獣】 サギ類</p> <p>【被害の傾向】 カワウ（サギ類含む） 高津川におけるアユの被害が主体であり、特に産卵期（10月から11月上旬）の捕食被害が甚大である。また、被害は河口付近のみならず匹見川など上流にも及んでおり、高津川漁業協同組合では、年間被害額を1千万円程度と推定している。生息数については、増加傾向にあると推定される。</p>

<p>島根県 隠岐の島町</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類 【被害の傾向】 農林水産関係の被害は、定植直後の水稻に顕著に見られ、加害鳥獣としてはカラス・サギ類（チュウサギ・ダイサギ・コサギ・アオサギ）が主である。これまでも捕獲対策を実施してきたが被害の減少がみられないことから、生息状況については、カラス・サギ類ともその数が横ばいか若干の増加傾向にあると推測している。</p>
<p>島根県 飯南町</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類 【被害の傾向】 水田での踏み倒や、養魚場（3箇所）での食害が発生している。生息数、被害額とも横ばいと推定している。</p>
<p>島根県 吉賀町</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類 【被害の傾向】 カワウ（サギ類含む） 高津川本流等の内水面において、鮎を中心に被害が発生しており、近年飛来数が増加していると推定している。</p>
<p>岡山県 新見市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ</p>
<p>広島県 福山市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 （被害時期：生育期 発生場所：市北部の田） 北部地域で、田植え直後の苗で被害が出ている。 【捕獲実績】 H19年度：4羽。</p>
<p>広島県 庄原市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類 【被害の傾向】 サギ類・カワウ 河川にアユ、ヤマメなどの稚魚を放流しているが、カワウ・サギが飛来し放流魚を餌としており、周年で被害が増加傾向にある。また、灰塚、七塚等の保護区にある湖沼に営巣、コロニーを形成しており、フンによる樹木の枯死など環境にも被害が発生している。放流により、餌が豊富なため、カワウ等の数が増えるのではないかと推定される。 【対象鳥獣の捕獲計画】 被害が増加傾向にあり、継続して捕獲を実施することとする。 【捕獲実績】 H19年：161羽、H20年：153羽、H21年：255羽。</p>
<p>広島県 安芸高田市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類 【被害の現状】 山にコロニーを作り、年々増加し、被害も増加している。（被害の額の把握は、困難であるが、実態として増加傾向にあることは、明らかである。） 【被害の傾向】 カワウ・サギ類 （被害時期：周年 発生場所：江の川・江の川水系） サギ類は、八千代町勝田の山にコロニーを作り、数も年々増加し、300羽以上いるものと思われる。大食漢ではないが、他所へ飛来しないため、被害が多くなっている。三篠川においては、カワウ・サギの被害は、確認されている。水産物の被害把握は困難であるが、漁協へ許可捕獲をだして、捕獲を行っている。また、各漁協において、銃器による捕獲、ロケット花火等を使用したカワウ、サギの追い払いを実施している。 【その他捕獲に関する取組】 H21年度 カワウ、サギ類については、漁協との連携を図り、従来の銃器による捕獲と、わな（付け針）による捕獲を試みる。 【対象鳥獣の捕獲計画】 江の川沿いでは、銃による捕獲できる箇所が少ないため、漁協による「わな」での新しい捕獲の試みを確認しながら、進めていく。 【平成20年度実績】 サギ類：4羽 ※カラス、サギ、カワウについては、河川、湖畔での捕獲となり、場所によっては流されて、捕獲出来ない（実績にならない）有害鳥類もある。</p>
<p>広島県 東広島市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ 【被害の傾向】 カラス・鳥類 （被害発生地域 市内全域）（被害発生時期 春～秋（水稻刈入前））市内の広範囲にわたり、野菜、果樹への被害。</p>

<p>広島県 神石高原町</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類  【被害の傾向】 サギ類による被害は田植え時期から始まり、水稻苗を踏み倒し稲の生育に重大な影響を及ぼし、本町全域で被害が拡大している。  【捕獲実績】 平成16年度以降水田被害が拡大しており、捕獲実績も増加傾向にある。  H16年度：29羽、H17年度：51羽、 H18年度：24羽、 H19年度：52羽。</p>
<p>広島県 安芸太田町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 アオサギは全町に生息し、水産資源として放流されたアユ、アマゴ、マス等（3月～9月）を補色する被害が発生している。生息場所は以前は太田川沿いであったが、現在は支流の上流域まで拡大してきている。また釣り堀、養殖場での被害は年間を通じて発生している。  【捕獲実績】 H17年：30羽、H18年：25羽、H19年：17羽。</p>
<p>山口県 山口市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類  【捕獲実績】 ハト類、スズメ、ヒヨドリ、サギ類 H19年度：40羽、H20年度：23羽、H21年度：68羽。</p>
<p>山口県 防府市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類  【被害の傾向】 サギ類（ダイサギ、コサギ等） 4月～6月にかけて田植え後の水稻の食害と苗を踏み倒す被害が発生している。また、11月下旬から12月上旬にかけて麦の若芽を食害する被害も発生している。被害区域は、大道干拓全域を中心にその周辺部に及んでいる。  【捕獲実績】 サギ類（ダイサギ、コサギ） H18年度：0羽、H19年度：5羽、H20年度：0羽。</p>
<p>山口県 萩市・阿武町 (合同計画)</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ類  【被害の傾向】 カラス同様、田植えあとの水田に出没し苗に被害がある。また各河川ではアユの食害が見受けられる。</p>
<p>徳島県 那賀町</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 アオサギによる被害は、カワウと同じで夏から秋にかけて発生している。被害としては、アユ・アメゴ等の川魚への被害が多くなっている。被害区域は、那賀町内を横断している那賀川流域が主となり、各支流へも被害が広がっている。  【対象鳥獣の捕獲計画】 那賀町においては、近年アオサギによるアユ・アメゴ等の川魚への被害が増加している。  【捕獲実績】 H16年度：4羽、H17年度：28羽、H18年度：43羽、H19年度：30羽。</p>
<p>福岡県 八女市</p>	<p>【対象鳥獣】 アオサギ  【被害の傾向】 コサギ、ゴイサギ、カワウ、アオサギの個体数の増加により、主たる魚種であるアユ、オイカワ、(他にコイ、フナ、ウグイ、カワムツ、カマカツ)の内水面稚魚の食害により市内矢部川流域の生態系の維持保存が困難になっている。  【従来講じてきた被害防止対策】 ゴイサギ等の捕獲については、市町村を跨るため、県知事捕獲許可を受けた者が銃器による捕獲を行っている。  【今後の取組方針】 ゴイサギ等の被害防止を効果的なものとするために、市町村を跨った広域での捕獲連携体制の構築の維持を図っていく。  【捕獲等の取り組み内容】 ゴイサギ等の矢部川流域生態系有害鳥獣の捕獲及び手段としては、稚魚育成保護の観点から3月から4月、6月から7月、9月から10月までの30日毎の期間に年3回の銃器による捕獲を行う。</p>

<p>佐賀県 鳥栖市・基山町・みやき町・上峰町 (合同計画)</p>	<p>【対象鳥獣】 ドバト等鳥類  【被害の傾向】 本地域におけるドバト等鳥類による被害作物は、主に水稻と大豆である。水稻については収穫期、大豆については播種期の被害が大きい。被害は地域全体に広がっているが、主に平坦部で被害が出ている。  (注：当記述は平成23年度策定の計画によるが、平成22年度の計画も内容は同じとのこと)</p>
<p>佐賀県 神埼市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ（アマサギをのぞく）  【被害の傾向】 平野部では、ドバトやサギによる被害が発生しており、農作物の食害のほか、ビニールハウスやマルチへのいたずら等の報告が寄せられている。  【捕獲等に関する取組】 カラス類、ドバト、サギ類 地区ごとに駆除を実施するため、駆除実施日が一斉に出来ず、効果的な駆除まで至っていない。  【対象鳥獣の捕獲計画】 鳥類 神埼市では、捕獲数はほぼ横ばいだが、餌の多い平野部での被害が多くなってきている。</p>
<p>長崎県 五島市</p>	<p>【対象鳥獣】 サギ  【捕獲実績】 H17年度：36羽、H18年度：161羽、H19年度：259羽。</p>